

氏名(本籍) 小野 裕貴 (広島県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 甲 第311号
学位授与日 2015年3月23日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 歯肉溝滲出液中の *Tannerella forsythia* Forsythia Detaching Factor に対する切断酵素活性の治療効果判定への応用
論文審査委員 (主査) 教授 申 基喆
(副査) 教授 大森 喜弘
(副査) 教授 友村 明人
(副査) 教授 渡部 茂

論文内容の要旨

本研究の目的は、歯周治療による慢性歯周炎患者由来 GCF 中の FDF 切断酵素活性 (FDF cleaving activity: FC activity) 変化を検討し、歯周治療の評価指標としての FC activity の有効性を明らかにすることである。慢性歯周炎患者 7 人に歯周治療を行い、GCF と歯肉縁下プラークを被験部位である clinically healthy sites (CH) , deep non-bleeding sites (DNB) , deep bleeding sites (DB) から歯周治療前後 (BL と PT) に採取した。解析は AC-RAK-pNA を用いた FC activity の測定と PCR 法を用いた *T. forsythia*, *P. gingivalis* および *T. denticola* の検出を行った。その結果、GCF 中の FC activity は 3 群ともに BL と比較して PT において有意に減少した。歯肉縁下プラーク中の 3 菌種の検出を行った結果、BL において DNB 群と DB 群の細菌検出率は 3 菌種とも 85.7 %であったが、PT においては、*T. forsythia* が検出された DB 群の 1 部位を除いて検出されなかった。また BL と PT において、それぞれ 3 菌種の検出部位と未検出部位の FC activity の比較を行った結果、3 菌種とも有意差は認められなかったが、3 菌種の検出部位、未検出部位は、それぞれ BL と PT の比較においては FC activity の減少が認められた。

本研究の結果より、FC activity が歯周治療評価の指標として有効である可能性が示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本論文は、未治療の慢性歯周炎患者から採取した GCF 中の FC activity が健常者から採取した GCF 中の当該酵素活性より有意に高値を示したこれまでの結果を踏まえ、GCF 中の FC activity を歯周治療前後で比較し、当該酵素活性が歯周治療評価の指標として有用であることを明らかにしたものである。本論文における統計学的検討の結果、FC activity の減少を伴う臨床パラメーターの有意な改善が認められたことにより、当該酵素活性が歯周治療評価の指標として有効であることが示唆され、臨床上有意義な知見を提供しているものと判断できた。

明海大学大学院歯学研究科歯学専攻 小野 裕貴に対する最終試験は、2014年11月11日、主査 申 基喆教授、副査 大森 喜弘教授、友村 明人教授、渡部 茂教授の4名により行われた。論文審査ならびに専攻学術に関し、口頭試問をもって実施し、合格と認めた。また、小野 裕貴の語学試験は、大学院入学試験の外国語試験の結果をもって合格とした。よって申請者 小野 裕貴の本論文は、博士(歯学)の学位論文に値するものと判断した。